人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例

１．基本情報

○都道府県名及び市町村名

秋田県にかほ市

○学校名

にかほ市立象潟小学校

○学校のＵＲＬ

http://www.edu.city.nikaho.akita.jp/~kisakata-e/

２．学校紹介

○学級数

【通常の学級】全学年２学級、【特別支援学級】１学級、【合計】１３学級、通級指導教室

○児童生徒数

【全児童生徒数】３６７人（平成２６年１２月１日現在）
（内訳：１年生 63 人、２年生 57 人、３年生 61 人、４年生 63 人、５年生 61 人、６年生 62 人）

○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

なし

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】　「心豊かに、たくましく生きる子どもの育成」
心を磨く子ども　頭を鍛える子ども　自分を高める子ども
【人権教育に関する目標】
「仲間と共に生きようとする子ども」

○人権教育に係る取組一口メモ

「いのちの教育」を核とした道徳教育や思いやよさを生かす特別活動を中心とした人権教育の取組

○人権教育にかかる取組の全体概要

○「いのちの教育」を核とした道徳教育の充実
生命ある全てのものを大切にしたり、互いの立場や考えを尊重したりするなど共に生きていこうとする思いやりの心を育てる。
○一人一人の思いやよさを生かす特別活動
・縦割り班の活動を通して、思いやりや協力し合う態度を育てるとともに、自己有用感を醸成する。
・互いのよさを認め合うことを通して「人権意識」の深化を図る。

３．特色ある実践事例の内容

◆「いのちの教育」を核とした道徳教育の具体的実践

（取組のねらい、目的）

自他を大切にする心を育てるには、道徳教育の充実が欠かせないと考える。

今年度は文部科学省委託「いのちの教育あったかエリア事業」の指定を受け、全校体制で生命尊重に重点をおいた道徳教育を進めており、生命に対する畏敬の念や自他を尊重する心の育成をテーマとして実践を積み重ねている。

〇道徳の授業実践（第３学年）

（１）主題名　「つながる命」　　３－（１）生命の尊重

資料名　「ヌチヌグスージ（いのちのまつり）」

（２）ねらい

生命は過去からつながっていることを知り、生命を大切にする心情を育てる。

（３）人権教育との関連

自分の命が大勢の先祖からつながっていることを知り、将来もつながり続ける命を大切にしようとする心情を育てる。また、友達の命も自分同様に大切であることに気付かせ、互いに尊重し合う気持ちも育てる。

（４）本時の展開

事前指導	・自分の祖父母や曾祖父母についてみんなに紹介する内容を考える。		
段階	学習活動と主な発問	予想される子供の反応	教 師 の 支 援
導入	１　自分の先祖のことについて発表し合う。 〇あなたにとっておじいさん、おばあさん、ひいおじいさん、ひいおばあさんはどんな人ですか。	・一緒に遊んでくれる。 ・運動会の応援にきてくれた。 ・本を買ってくれる。	・祖父母参観の様子を提示し、祖父母や曾祖父母との関わりを想起させて資料に興味と関心をもてるようにする。
	２　「ヌチヌグスージ」を聞いて、話し合う。 〇「おはかまいり」と聞いてコウちゃんはどう思ったでしょうか。	・変わったお墓参りだ。 ・歌や踊りで「ありがとう」を伝えるんだな。	・視覚に訴え、資料の内容を把握しやすいよう、挿絵を活用して読み聞かせをする。 ・沖縄のお墓参りの資料を提示し、踊ったり歌ったりする人の感謝の気持ちまで考えることができるようにする。

展開	◎御先祖様の数を数えながら、コウちゃんはどんなことを考えたでしょうか。	・御先祖様が４人、16 人、32 人・・・ものすごい数だ。 ・どこまで続くのかな。宇宙や地球の始まりまでいきそうだ。 ・ぼくの命はずっとつながっているんだ。	・命のつながりを視覚的に捉えることができるよう、御先祖様の絵を順々に提示する。 ・どうして「ぼくの命ってすごい」と言ったのかを考えるようにすることで、命のつながりに感動している主人公に共感できるようにする。
終末	○「命をありがとう」と言ったとき、コウちゃんはどんな気持ちだったでしょうか。	・ぼくは御先祖様がいたから生まれてきたんだ。御先祖様、命をありがとう。 ・ぼくの命はつながっていてこれからもつながっていくんだ。	・過去だけでなく未来も考えることができるよう、主人公の後に子孫が続いていく様子を提示する。
	３　自分自身について考える。 ○自分の命もご先祖様とつながっているということを知ってどう思いましたか。	・今まで考えたこともなかった。 ・御先祖様がいたから自分の命があるんだな。	・「命がつながっているのはコウちゃんだけかな」と問いかけ、自分の命もつながっていることに気付くことができるようにする。
	４　詩の読み聞かせをする。	・次はぼくの番だ。 ・これからも元気にいろいろなことを頑張りたいな。	・今度は自分が命をつなげる番だと感じ、命の大切さを自覚できるようにする。
事後指導	・自分の命について知ったことや考えたことを基に家族にお手紙を書く。 ・自分の生命も他の生命も大切であることを日常生活の様々な場面で引き続き伝えていく。 ・動植物の飼育栽培を通して動物や植物も命がつながっていくことを実感し、生命を大切にしようとする気持ちをもてるようにする。		

○「いのちの授業」の実施（第６学年）

「ちょっと聞いてほしいからだと生命の話」

（１）ねらい

・保健師の方の講話を聞くことで、「自分の命はかけがえのないものであること」「自分の命は一人だけのものではないこと」という思いをもつことができるようにする。

・自分の命は受け継がれてきた大切なものであり、その命を未来へとつなげていく役割をもっていることに気付き、現在もこれからも、自分や他の人の心と身体を大切にしていこうとする気持ちをもつことができるようにする。

（２）主な内容

◎大人になる…ってどんなこと？

・思春期について

・自分だけの大切な場所

（プライベートゾーン）

◎生まれる…ってなあに？

・選ばれた生命

・つながっている生命

・大切な生命

・いろんな生命

・生命のバトンタッチ

◎生まれてきてくれただけで１００点満点！！

・自他の心と身体の尊重

・自分を大切にする心の醸成

・生きることの大切さ

［児童の感想］

ぼくは保健師さんの話を聞いて、一度きりの人生だから、だれも傷つくことなく、だれも悲しむことがなければいいと思いました。（中略）

これからも自分の体を大切にしたいです。長生きして家族を残したいです。

私は今日の命の話を聞いて、自分の命の大切さに改めて気がつきました。（中略）

また、心に残っていることは、生まれつき障がいや病気があってもなくても「命」だということはかわりないということです。この話を聞く前は、障がいをもっている人、病気がある人をちがう目で見てしまってした自分がいました。みんな同じ命、かけがえのない命として、接していきたいと思います。

◆一人一人の思いやよさを生かす特別活動の実践

（取組のねらい、目的）

よりよい人間関係を築き、それぞれのよさを認め合うことができるように、今年度は、縦割り活動やお互いのよさを認め合う活動を更に推進して取り組んでいる。どの活動も掲示をすることで見える化を図り、他との関わりや自分自身のよさやについて気付きを広げることができるように工夫している。

○縦割り活動

①　運動会色別応援（１学期）

春の運動会では６年生をリーダーとして、４色に分かれて応援合戦や綱引き、リレーなどの種目を行った。リーダーとしての自覚を高めたり、友達と協力して活動に取り組もうとする気持ちを育てたりすることができた。

②　縦割り遊び（毎月第３火曜日）

運動会の色別を更にグループに分け、縦割り班をつくっている。毎月第３火曜日の朝の時間にはその班の計画に沿って縦割り遊びを実施している。活動する場所（体育館・教室）などに応じた活動内容になるため、場所を縦割り班ごとに、あらかじめローテーションさせて決めている。

縦割り遊びの様子

③　縦割り読み聞かせ会（１学期）

５・６年生が、自分たちで下学年に読み聞かせしたい本を選んで練習し、縦割り班ごとに、朝の時間に読み聞かせをした。

縦割り読み聞かせの様子

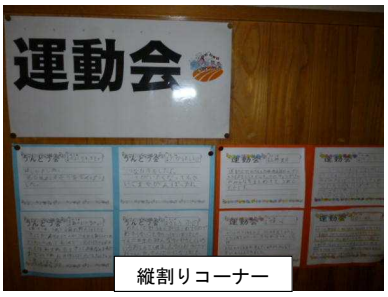
④　「象小まつり」（３学期）

「象小まつり」は、各委員会が出し物を決めてブースをつくり、そのブースを縦割り班で巡るものである。各委員会の５・６年生が、出し物の企画や運営に携わることで高学年の自主性を育むとともに、縦割り班でブースをまわり楽しむことで、関わりを深め、協力しようとする気持ちを高めていくことをねらいとしている。

⑤　「縦割りコーナー」の設置

班ごとの写真や活動の様子を掲示したり、お互いの関わりについての気付きを深めることができるように振り返りを掲示したりして縦割り班の意識を高めるための見える化を図っている。

～子どもの振り返りより～
６年生が応えんする姿を見て，優勝したいということが伝わってきたので，ぼくも下の学年をまとめてサポートすることをがんばりました。



縦割りコーナー

○お互いのよさを認め合う活動

①　「思いやりの木」の取組（全校）

各学年ホールには、「思いやりの木」のコーナーがある。このコーナーには、「親切にしてもらってうれしかったこと」「ありがとうの気持ちをもったこと」などについて葉っぱに書いて掲示し、「思いやりの木」の葉を増やしている。

昼の放送でも幾つかを取り上げて知らせることで、各学年から全校へも紹介できるようにしている。

○○さんへ
いつも朝，みんなに大きな声であいさつを返してくれて，わたしは元気になれます。　□□より

○○さんへ
あさ，いつもぼくたちをまってくれたり，あんぜんにとうこうできるようにしてくれたりしてありがとうございます。
□□より

「思いやりの木」

② 「バースデーカード」の取組（中学年）

友達の誕生日に合わせて、その友達の「がんばっているところ」「いいなとおもうところ」をクラスの全員がカードに書いて言葉のプレゼントをしている。友達がどんなことを書いて言葉のプレゼントをしてくれるのかとても楽しみにしている。

○○さんへ
友だちがけがをしたときやないたときに，やさしい言葉をかけてやさしいなと思いました。□□より

○○さんへ
サッカーがとても上手でいいなあと思っています。ぼくも○○さんのように上手になりたいです。□□より

「バースデーカード」

③ 帰りの会での認め合い（全校）

帰りの会ではどのクラスでも今日の一日を振り返り、「がんばっていた人」「ありがとうを言いたい人」などを紹介する時間を設定している。このような活動を繰り返すことで、友達に目を向け、そのよさを見付ける目を育てていくことができている。

４．実施する際に生じた課題及びその解決策

○児童は命の大切さについてはよく知っていた。しかし観念的な捉えであり、命の重さを実感するところまでは至っていなかった。生命尊重に重点をおいた道徳の授業研究で課題となったことも、いかに命を児童に実感させるかということであり、資料から自分を振り返る場面での様々な指導の工夫を行った。また、専門的な立場であるゲストティーチャーによる命についてのお話は、児童の心に響いた

ことが、児童の作文からうかがわれた。
○縦割り活動や互いのよさを見付け合う活動においては、時としてマンネリ化の様子が感じられることがあった。そこで、新しい活動を工夫しているグループや、真剣に活動に取り組む児童を教師が称揚して、真のがんばりを認め合うことのできる人間関係づくりの力を伸ばすようにした。

５．実践事例の実績、実施による効果

○「いのちの教育あったかエリア事業」として、生命尊重に重点をおいた道徳の授業、ゲストティーチャーを迎えての「いのちの教室」、花いっぱい運動、あったかメッセージカードなどの活動を行った。道徳の授業では、家族や友達、さらには
動物の命もかけがえのない大切なものであるといった児童の発言が各学年段階の言葉で表現されていた。また、ゲストティーチャーによる「いのちの教室」では、助産師、動物管理センター等の方々の心に響くお話を伺い、児童の心が耕され、命を実感することができる心温まる時間となった。それぞれの活動が有機的に関連し、相乗効果を生み出しながら、命を大切にする心の育成につながるとともに、自他を大切にする人権意識も以前より高まってきている。
○年間を通した縦割り活動は、児童一人一人の存在感が保障され自己有用感を高める機会となった。また、それぞれの活動の反省と課題の再発見をし、達成感を味わうとともに、仲間と協力して新たな活動に取り組もうとする意欲も高まってきている。
○よさを認め合う「思いやりの木」や「バースデーカード」等の実践により、人に関心をもち相手のよさに目を向ける心が育ってきていると思う。また、友達や教師に認められることで自尊感情も高めることができ、よりよい人間関係を築く上で効果的な実践であったと考える。

６．実践事例についての評価

○「いのちの教育」を核とした道徳教育や思いやよさを生かす特別活動を中心とした人権教育の取組は、本校の子供像である「仲間と共に生きようとする子ども」に向かい、ある程度の成果を収めることができたのではないかと考える。つながれてきた命、感謝の心、一つだけの命といった言葉が子供たちの発言や日常の会話で交わされたり、互いの立場を認め合う姿が見られたりするようになってきている。
　日常の言動にはまだまだ課題は多いが、今年度の意図的・計画的な道徳・特別活動を中心とした取組を継続し、さらなる人権意識の高揚を図っていきたい。
○ＰＴＡ授業参観における年１回以上の道徳の提示、道徳通信の発行、学校だよりや学年だより等による各種活動の情報提供など、保護者や地域に発信してはいるが、学校からの一方通行のことが多かったと反省している。自尊感情を育むことや他者のよさを認める態度などについて、保護者の考えに耳を傾けて、学校と家庭の双方向で情報提供し合いながら共に児童を育てる体制をつくっていく必要がある。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

にかほ市立象潟小学校
「いのちの教育」を核とした道徳教育の具体的実践を通して児童の人権意識を育てようとしている。また、自分の命を考えるだけではなく、自分の命が大勢の先祖からつながっていることを知り、将来もつながり続ける命を大切にする心情を育てようとしている点に特徴がある。具体的には、地域の方をゲストティーチャーとして迎えて聞き取りを行ったり、年間を通して縦割りの活動を重ねるなどしていることが注目されよう。このような学習を通して、よりよい人間関係を築き、それぞれのよさを認め合うことができるようにすることをめざしている。このことは、人権教育の底辺を形作ると言えよう。人権教育と道徳教育の重なる部分だと言うべきである。